

もくじ

- 02 ふるさと昔ばなし 住山地区  
ひと・まち輝き  
浅海真弓さん(今田町今田)
- 04 街かどReport  
リポーター:木戸雅子さん(河原町)
- 06 TOWN TOPICS まちの話題
- 08 市政レーダー 篠山市発... 人権
- 13 健康ナビ
- 14 はぐくみ  
教育NOW・わくわくKID'S  
ぼくとわたしの作品らんど
- 16 Living Information Smile

※カレンダーは、はずしてご利用ください。

人のうごき		
平成19年3月末現在 (前月比)		
人口	46,476人	(-111人)
女	24,254人	(-58人)
男	22,222人	(-53人)
世帯数	16,278世帯	(+12世帯)

ホームページ <http://www.city.sasayama.hyogo.jp/>  
電子メール [e-mail@city.sasayama.hyogo.jp](mailto:e-mail@city.sasayama.hyogo.jp)



## ふるさと昔ばなし

— 住山地区 —

### 「地域に誇れる宝」

わたしの住む住山地区には、ふれあいの郷「平成公園」と名付けられた広場があります。かつて、この場所は「きつね谷」とも呼ばれ、うっそうと木が生い茂り、昼間でも薄暗かったことを覚えています。そんな場所でしたから、キツネがあらわれては人を化かすという話も、まことしやかに流れ、わたしは昔、夜道を1人で歩くことを控えたものでした。

時は過ぎ、平成2年には生い茂っていた木を伐採し、その跡にサクラを植樹しました。今では、地域の寿会の皆さんが維持管理を行われ、地域の方たちの癒やしの場となっています。

また、住山地区には地域の方から忘れ去られた石塔2本が建立されています。わたしは昨年、地域の方たちと一緒に埋もれていた塔を掘り起こし、復元しました。この塔は「六十六部供養塔」と呼ばれ、江戸時代に法華経を66カ所の霊地に納めて歩いた修行者が、願いが終わった記念に建てたということです。塔には「天下和順(天下太平の世の中)、日月清明(季節ごとの天候が安定していて、異変が起きないこと)」という文字が刻まれています。この言葉から、今も昔も世の中は平和で、災害などが起こらないように願う心は変わらないものだと思います。

わたしは、地域の方たちと一緒に地域の宝を守っていくとともに、石塔の思いのように、地域が安全で安心して暮らせるよう願っています。

投稿 松本一等さん



※このコーナーでは、地域にまつわるユニークな昔話を紹介します。ふるさとの懐かしい思い出話や言い伝えなどを教えてください。

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。

■問い合わせ 秘書広報課広報係 ☎552-5112

## ひと・まち 輝き

### 童話を題材に陶製の万華鏡を制作

三月八日から四月八日まで篠山クルドレンズミュージアムで行われた「絵本カーニバルinちるみゆー」を題材に、陶製の万華鏡を制作し、展示されたのが、造形作家の浅海真

## 陶芸から歩んだ造形作家への道 心に響く作品づくりに取り組み

今田町今田 浅海真弓さん(36)



弓さんです。万華鏡は、浅海さんと万華鏡作家として活動されている横井日出昭さんとが、物語のお姫さまをイメージして考案。全体の造形を浅海さんが担当され、粘土で型をつくり、顔や模様を描かれました。高さは約七十センチ、スイッチを入れると内部のスクリーンが回転し、二つののぞき穴から美しく幻想的な世界を楽しむことができます。浅海さんは、「子どもたちがこの作品を見て、何かを感じ取り、物語に興味を持つきっかけになればうれしいですね」と話されます。

### 造形作家への第二歩

幼少のころから絵を描くことが好きで、地元の丹波焼にも触れてこられた浅海さん。大学に入学されてからは、「平面的なものより立体的なものを描いてみたい」という思いから、本格的に陶芸を始めたそうです。

そして、大学を卒業されてからは、陶芸に限定せずに活動していきたいとの思いが強まり、粘土を使ったオブジェやソフトスクラップチャー(布を使ったオブジェ)などを中心に創作され、造形作家としての道を歩まれることになりました。現在は、兵庫陶芸美術館で勤務される傍ら、数多くの作品を手掛けられ、関西を中心に造形展を年に数回、開かれています。

### 造形作品に寄せる思い

ところで、浅海さんは「見る方の心に響く作品をつくりたい」という思いを胸に活動を続けられ、今年で十年目。二十世紀に活躍した画家のピカソやシャガール、マチスたちが描いた作品のように、人の想像つかないような作品を手掛けていきたいです」とその意欲を話されます。また、さまざまな作品に触れることができる貴重な機会として、展覧会などに積極的に出掛けられているそうです。「造形作品は手掛ければ手掛けるほど、奥深さを感じます。納得のいく作品ができるまで、いつも試行錯誤の繰り返しです」とのこと。最後に、「わたし自身楽しみながら作品を作り続けたいと思っています。今後は、海外でも展覧会を行い夢を広げていきたいですね」と話していただきました。



浅海さんのお気に入りの作品「くさけいば」  
「フルーツバスケット」(写真左から)